

XKANSAI
ソーシャルイノベーション・プログラム（第3期）
募集要領

一般社団法人うめきた未来イノベーション機構（U-FINO）

プログラムの趣旨・目的

本プログラムは、関西の社会課題解決と新産業・新規事業創出を目的とし、関西が国際的な社会課題解決型ビジネスを生み出すエリアとなることをめざしています。

うめきた2期をフィールドに、社会課題解決や新産業創出に向けて官民一体となって活動するU-FINOでは、関西圏の企業、行政、金融機関、教育機関などが一体的に、そしてコレクティブ（集合的）に社会課題解決（社会的インパクト創出）に取り組む「XKANSAI ソーシャルイノベーション・プログラム」を2024年に始動しました。

社会課題の解決と新産業・新規事業創出を両立するためには、民間企業と課題を抱える行政が有機的に共創することが重要です。本プログラムでは、行政が社会課題の本質的な問題点を提示した上で、民間企業から広く解決策（事業提案）の募集を行い、優れた事業提案を表彰するとともに、社会実装に向けた支援を行います。

行政とともに社会課題解決（社会的インパクト創出）に取り組もうとする皆様のご参加をお待ちしています。

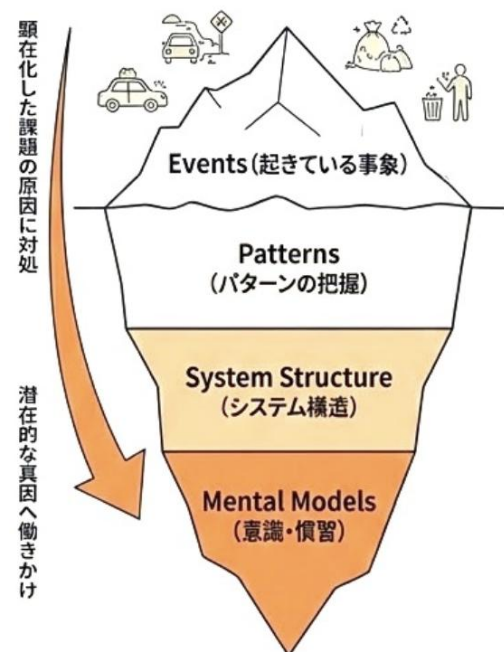
本プログラムが募集する「システムチェンジ」型のビジネスモデル

本プログラムでは、短期的な解決策や対症療法的な事業にとどまらず、社会課題を生み出している仕組み（構造）そのものを変革する「システムチェンジ」をめざすビジネスモデルに対して、表彰及び事業化支援を行います。

私たちが日常的に目にする社会課題（現象）は氷山の一角にすぎません。本プログラムでは、関西圏の自治体等と連携の上で、課題を氷山に見立てた「氷山モデル」において、氷山の見えない部分（課題の構造部分）に焦点を当て、公募テーマを選定し、各テーマ（課題）の課題解決策の事業化に取り組みたい企業を広く募集します。

「システムチェンジ」の詳細は、公益財団法人社会変革推進財団（SIIF）のWebサイトを参考にご覧ください。

https://www.siif.or.jp/approach_theme/system_change/



（社会課題の「氷山モデル」）

募集期間

2026 年 7 月 17 日（金）～10 月 16 日（金）18 時【必着】

募集対象・応募資格

以下のいずれかの課題（テーマ）に該当する事業を対象とします。

テーマ A 「生活交通の確保」

- ・ A-1：交通弱者が地域内で生活を完結できる仕組みづくりに資する事業提案
- ・ A-2：公共交通の路線・担い手の拡充につながる事業提案
- ・ A-3：駅前や主要幹線道路の交通渋滞緩和につながる事業提案

テーマ B 「空き家対策」

- ・ B-1：空き家化リスクのある住宅への早期介入及び効果的な活用を促す事業提案

テーマ C 「持続的な公園マネジメント」

- ・ C-1：利用者ニーズに応じた公園価値の創出につながる事業提案
- ・ C-2：公園への継続的な利用・参加を促す事業提案
- ・ C-3：公園維持管理の負担軽減につながる事業提案

テーマ D 「人材・労働力不足」

- ・ D-1：公的サービス分野における「省人化・生産性向上」につながる事業提案
- ・ D-2：公的サービス分野における「求人と求職のミスマッチ解消」につながる事業提案

各テーマ（A「生活交通の確保」、B「空き家対策」、C「持続的な公園マネジメント」、D「人材・労働力不足」）に関する事業であれば、事業内容や事業規模、事業年数に関わらず応募可能ですが、事業フェーズとしては、今後の事業化や社会実装を見据えて、事業モデルの仮説検証や実証実験、プロトタイピング等に取り組んでいることが望ましい。

※対象は法人に限ります（社団法人、合同会社を含む）。共同企業体でのご応募も可能です。

※関西で事業活動を行っていること、または今後行う予定があること。

※1次審査（書類審査）を通過し、ファイナリストに選出された場合、2026 年 12 月 18 日午後（予定）に、グラングリーン大阪北館 JAM BASE で開催する最終審査会（ピッチ審査）に、法人の代表者または役員、もしくは提案事業に関する責任者が対面で参加できること。

※反社会的勢力でないこと、反社会的勢力との関係を有しないこと。

※上記に関わらず、主催者が不適切と認めた場合は、参加を取り消すことがあります。

提出書類・提出方法

- ・ 提案申請書（所定様式）A4
- ・ 補足資料（任意様式）A4・5枚以内（表紙がある場合は表紙を除く枚数）
- ・ 提出期限：2026 年 10 月 16 日（金）18 時【必着】
- ・ 提出方法：下記のメールアドレスあてに、Eメールでご送付をお願いします。
送付先：info@u-fino.com（担当：森田）

※提案申請書は下記の Web サイトからダウンロードをお願いします。

<https://u-fino.com/event/list/detail/000556.html>

※ご提出いただきましたら、担当から受信した旨の返信メールをお送りします。2 営業日以内に返信メールが無い場合は、正常に受信できていない可能性がございますので、お電話にてお問い合わせください。（電話番号：06-6136-4016）

審査スケジュール

1 次審査（書類審査）

2026 年 11 月 6 日（金）までに結果をご案内します。

※申請書に記載された連絡先に E メールで通知します。

※1 次審査を通過した事業者に対して、2026 年 12 月 18 日午後（予定）の最終審査会への参加確認の上、ファイナリストとして選定します（8 社程度を想定）。万一辞退される場合は 11 月 10 日（火）までに事務局へご連絡願います（辞退者が出た場合、次点事業者を繰り上げて選定します）。

※ファイナリストに選ばれた事業者は、U-FINO の Web サイトやプレスリリース等で社名、提案事業名などを公開いたします。

ファイナリストに対するメンタリング等

1 次審査を通過されたファイナリストには、最終審査会でのピッチに向けたメンタリング等を行います。

2026 年 11 月 17 日午後（予定）に、グラングリーン大阪北館 JAM BASE において、ファイナリスト、メンター、事務局との顔合わせを予定しています。日程の確保をお願いいたします。

2026 年 12 月 18 日（予定）の最終審査会までに、メンターとの 3 回（予定）のセッションを通じて、提案内容のブラッシュアップ等の支援を行います。

<支援内容（3 回予定）>

- ・ 1 回目：事業内容詳細のヒアリング、最終審査会までのメンタリングスケジュールの確認・調整など。
- ・ 2 回目、3 回目：ピッチ資料や内容に対する助言など。

最終審査会（ピッチ審査）

2026 年 12 月 18 日午後（予定）に、グラングリーン大阪北館 JAM BASE において、最終審査会を実施します。最大 80 名のオーディエンスの中での開催を予定しています。

最終審査会で各賞を決定し、受賞者については表彰及びフォローアップ支援を行います。

<審査員（予定）>

- ・ 委員長：一般社団法人うめきた未来イノベーション機構 代表理事
- ・ 委員：有識者 3 名程度

審査基準

1. 本プログラムの趣旨、目的を理解し、関西圏の社会課題解決や多くの自治体が抱える地域課題解決の点で優れていること
2. 事業モデルの新規性、優位性、成長性、実現可能性の観点で優れていること
3. 事務局が提示する社会課題の本質的な問題点（A-1～D-2 のいずれか）を意識し、冰山モデル（P1 参照）の「システムの構造（SYSTEM STRUCTURE）」および「メンタルモデル（MENTAL MODELS）」に深くアプローチする、課題構造のシステムチェンジにつながる提案であること
4. 自治体への単なる営業目的ではなく、共創による事業開発・社会貢献・事例組成を目的とする事業を行おうとする提案であること

参加費用等

本プログラムの応募に関して費用はかかりません。ただし、応募にかかる通信費や、最終審査会への参加にかかる交通費等は提案者にご負担いただきます。

【任意参加】

プログラムへの応募に向けた「事業開発講座」（全3回・無料）

本プログラムでは、事業構想大学院大学大阪校との共催により、プログラムへの応募を検討されている方向けの「事業開発講座」を開催します。

本講座では、地域課題・社会課題を起点として、顧客・提供価値・事業主体・活用すべき資源・収益の考え方を結びつけながら、構想を事業として描く視点を学びます。講座の最終日には、作成した事業プランをプレゼンいただき、講師からのフィードバックが受けられます。

本講座を受講しなくてもプログラムへのご応募は可能ですが、課題を起点とした事業の構想や、事業プランをブラッシュアップする機会となりますので、ぜひご参加ください。

【開催概要】（予定）

◆日 時：2026年9月1日（火）、15日（火）、29日（火）14:00～17:00（受付13:30～）

◆場 所

・9月1日、15日：事業構想大学院大学 大阪校

・9月29日：グラングリーン大阪 北館 JAM BASE 5 階 CONFERENCE 5-1

◆参加費：無料 ※要事前申込

◆定 員：20名

◆主 催：一般社団法人うめきた未来イノベーション機構（U-FINO）

学校法人先端教育機構 事業構想大学院大学 大阪校

◆詳細・お申し込み：<https://xkansaijigyokaihatu2026.peatix.com>

受賞者への支援等（予定）

1. U-FINO の Web サイト等での受賞者の紹介
2. 自治体との実証事業推進に向けたマッチング等の支援
3. 自治体向けセミナー等でのピッチ登壇機会
4. 「XKANSAI コミュニティ」※でのピッチ登壇機会

※関西における社会課題解決に関心がある自治体、民間企業、金融機関、支援機関等の関係者が個人の立場で参加するコミュニティ

5. 協賛(協力)企業・機関
 - ・ 一般社団法人コ・クリエーションジェネレーター（CCG）
 - ・ 三井住友海上火災保険株式会社
 - ・ 一般社団法人関西イノベーションセンター（MUIC Kansai）
 - ・ SBI ホールディングス株式会社（SBI FinTech Center OSAKA）
 - ・ 池田泉州キャピタル株式会社
 - ・ 株式会社三井住友銀行
 - ・ 東京海上日動火災保険株式会社
 - ・ 株式会社りそな銀行
 - ・ 一般社団法人うめきた MMO

（受賞者への副賞）※1

- ・ 賞金（最優秀賞：50 万円、優秀賞（2 社）：25 万円）
- ・ 実証経費の支援：1 社につき上限 50 万円（審査あり）
- ・ JAM-STUDIO 入居権（最優秀賞）※2
- ・ ビジネスマッチング機会の提供、経営支援等
- ・ JAM BASE でのイベント利用権+PR 支援（最大 1 回）
- ・ うめきた公園の一部を実証フィールドとして提供（最大 1 回（実施を希望する場合）、実施可能な企業数に制限有り）※3

※1 各副賞につきましては、受賞者の事業内容等により、ご提供できない場合がございます。

※2 JAM-STUDIO（利用者数 5 名）に、2028 年 3 月 31 日までの間で、最大 1 年間ご入居いただけます（入居開始時期によっては、入居期間が 1 年未満となる場合があります）。期間中の賃料は不要ですが、入居時の保証金（敷金に相当）、月々の Syn-SALON 会費、光熱費、通信費等は必要です。なお、最優秀賞受賞者が入居を辞退される場合、優秀賞受賞者へ権利を引き継ぎます（最終審査会での得点順に入居の意向確認・調整を行います）。ご入居の可否・入居時期等については、受賞決定後、調整のうえ確定いたします。

（参考）JAM-STUDIO：<https://umekita.com/jambase/facilities/jam-studio/>

※3 都市公園であるうめきた公園は、法令や管理運営上の制限・ルール等が設けられており、実施内容・場所・期間等によってはご希望に沿えない場合（実施が認められないことも含む）がございますので、あらかじめご了承ください。

詳細につきましては、受賞決定後、実施を希望される場合は、ご希望の実証内容等を企画書としてご提出いただき、関係各所と確認・調整のうえ、実施可否をご連絡いたします。

知的財産権、個人情報の取り扱い

1 知的財産権の取り扱い

- (1) 提案内容に関する著作権その他の知的財産権は応募者に帰属しますが、最終審査会には一般来場者も参加しますので、秘密事項の発表は避けるなど、ご注意ください。
- (2) 提案内容は、第三者の著作権その他知的財産権を侵害していないものに限りです。万一、提案内容が第三者の権利を侵害している場合または侵害する恐れがあると主催者が判断した場合(応募後に侵害となった場合を含みます)、受賞特典等を取り消すことがあります。

2 個人情報等の取り扱い

- (1) 提案申請書に記載された個人情報及び提案内容に関する情報は、本プログラムを主催する一般社団法人うめきた未来イノベーション機構(U-FINO)及び、企画運営を担う株式会社パブリッククロスがそれぞれのプライバシーポリシーに則って、適切に扱います。
また、これらの情報は、本プログラムの運営、審査、結果通知等に関する連絡、マッチングや副賞提供の検討・調整等のための自治体や協賛(協力)企業・機関への提供、主催者及び企画運営者からの各種情報提供(Eメールでの事業案内含む)のために使用します。
- (2) 本人の同意なしに他の目的での利用及び第三者へ提供いたしません(ただし、法令に基づく場合は除きます)。
- (3) ご提出いただいた提案申請書、補足資料は返却いたしません。

参考情報

本プログラムは2024年度より実施しており、これまでに多様な企業・団体からご応募をいただいています。

第1期(2024年度)

応募数: 22社 / ファイナリスト: 8社

- ・最優秀賞: エーテンラボ株式会社
- ・優秀賞: BIOTECHWORKS-H2 株式会社
- ・審査員特別賞: BABY JOB 株式会社

参考・第1期プログラム: <https://u-fino.com/program/xkansai/>

第2期(2025年度)

応募数: 38社 / ファイナリスト: 8社

- ・最優秀賞: 株式会社日本旅行・株式会社トータルブレインケア・アトラス情報サービス株式会社・株式会社Moff 共同企業体

- ・優秀賞：プレイング株式会社・株式会社 Good Loser 共同企業体
- ・優秀賞：株式会社ピリカ

参考・第2期プログラム：<https://u-fino.com/program/xkansai2025/>

以上

XKANSAI ソーシャルイノベーション・プログラム（第3期）

募集課題（テーマ）

● 「生活交通の確保」分野の募集課題（テーマ）について

めざす社会的インパクト：誰もが必要な時に必要な場所へ移動できる、生活環境の充実
自治体が抱えているペイン：公共交通の衰退と交通弱者の増加、駅前・生活圏の利便性低下

めざす社会的インパクトを実現し、自治体が抱えるペインを解消するために、民間企業から募集する新規事業テーマ

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント
A-1	交通弱者が地域内で生活を完結できる仕組みづくりに資する事業提案	自動車に依存しなくても、日常の買い物・通院・地域参加などの用事が徒歩圏内で概ね完結できる環境が整っている。その結果、高齢者・子育て世代・免許非所有者など移動に制約のある住民が、安心して地域の中で生活できている。	【課題内容】 人口減少と高齢化で、自家用車を持たない、または運転できない交通弱者が増え、公共交通の衰退も重なり、行きたい場所へ行くには何らかのモビリティに頼らざるを得ない状況が定着しつつあります。 とりわけ深刻なのは通院や買い物、地域コミュニティへの参加です。頻度は高いのに、公共交通では時間帯やルート面でカバーしきれいていません。 そもそも移動しなくていい状況をつくるという発想も一つです。日常の用事が徒歩圏内で完結すれば、交通弱者という問題自体がなくなります。とはいえ自分の目で選びたい、実物を確かめたいという欲求は根強くオンラインだけでは埋めきれない側面もあります。 【提案のポイント】 こうした背景を踏まえ、例えば以下のような視点を含む提案を期待します。 ✓ 移動販売・出張診療（定期処方・経過観察レベルのオンライン診療を含む）など、「サービスが地域に出向く」モデルの事業化 ✓ 遠隔診療・オンライン行政手続きなど、移動そのものを不要にするデジタルサービスの普及と、スマートフォン操作に不慣れな高齢者等が使いこなせるよう寄り添う伴走支援の仕組み ✓ 食料品・日用品の共同購入・共同ストック・融通など、近隣住民が生活インフラを分担・共有するコミュニティ型の仕組みの構築・運営 ✓ 住民の「外出しなけければならない頻度」を下げる設計 ✓ 上記の取り組みを通じて収集されるニーズデータや利用実績を活用し、自治体・地域団体・民間企業が連携して継続的にサービスを改善・展開できるエコシステムの構築

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント
A-2	公共交通の路線・担い手の拡充につながる事業提案	住民が行きたい目的地（医療機関・公共施設・商業施設など）へ乗り継ぎを含めて公共交通でアクセスできる路線網が整っている。また、多様な主体が運転・車両を提供する仕組みにより、担い手不足が解消され、持続可能な公共交通が維持されている。	【課題内容】 過疎化や利用者減少、運転手不足、燃料費の高騰を背景に、バス路線廃止や減便が相次いでいます。根本的な問題は行きたい場所にバス停や路線がないことで、現状の循環型ルートでは目的地まで迂回せざるを得ず、乗らない、乗れない交通手段になっています。 担い手不足という構造的な課題も深刻です。第二種免許の保有者が少なく、運転手の長時間労働と低賃金が慢性化しています。 介護送迎や企業通勤、商業施設のバスなど既存の送迎車両は各事業所が抱え込んでおり、空いている時間帯の活用や副業・パート形態での運転参加を促し、人材のプールを広げる必要があります。 【提案のポイント】 こうした背景を踏まえ、例えば以下のような視点を含む提案を期待します。 ✓ 介護送迎バス・企業通勤バス・商業施設バスの空き時間を地域住民向けに開放するための、事業者間マッチング・調整プラットフォームの構築 ✓ 「この路線のこの時間帯だけ運転する」といった短時間・部分的な勤務を可能にする、パート・副業型ドライバーの資格取得支援・参入マッチングの仕組み ✓ どの時間帯・区間にモビリティ需要が集中しているかをリアルタイムで把握し、行政・事業者が運行計画や路線設計に活用できるデータ収集・可視化の仕組み ✓ 多くの人が実際に向かう目的地（医療機関・公共施設・商業施設等）を中心に据えた路線・バス停の再設計（急行幹線＋きめ細かい支線の組み合わせ） ✓ 高齢者や子育て世代など移動制約のある住民が、目的地や時間帯を事前に登録するだけで最適なルートや乗合手段を提案される、需要予測型のオンデマンド交通サービスの提供

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント
A-3	駅前や主要幹線道路の交通渋滞緩和につながる事業提案	駅前や主要幹線道路の特定時間帯における自家用車の集中が緩和され、バス・タクシー等の公共交通が定時運行できている。また、インセンティブ設計により住民が公共交通・自転車・徒歩を主体的に選ぶようになり、駅周辺、主要幹線道路の安全・快適・環境負荷の低い交通環境が実現している。	【課題内容】 駅前は送迎車両・バス・タクシー・自転車・歩行者が集中する交通結節点であり、主要幹線道路を含めて、特に平日朝の通勤・通学ピーク時や雨天時に慢性的な渋滞が発生しています。この渋滞は公共交通の定時性を損ない、事故リスクの増加や排気ガスによる環境負荷悪化にもつながっています。 渋滞の主因はマイカーによる駅への送迎の集中です。これは、公共交通や徒歩・自転車での駅アクセスが十分にインセンティブ化されていないことに加え、特定の時間帯・エリアへの車の集中を分散させる規制や誘導の仕組みが整っていないことが背景にあります。 単純に車を使わせない規制では、免許返納後の移動手段が失われる問題や、雨天・荷物が多い場合など車での送迎が合理的な場面も残ります。車規制と代替手段の整備をセットで進め、「公共交通を使う方が得・楽」と感じられる体験と仕組みを整えることが重要です。 【提案のポイント】 こうした背景を踏まえ、例えば以下のような視点を含む提案を期待します。 ✓ 駅周辺に自転車シェアリングやラストワンマイル向けの小型モビリティを配備し、自家用車での送迎に頼らなくても駅から目的地まで移動できる手段の多様化 ✓ 駐車場・駐輪場・バス乗降場の混雑状況をリアルタイムで可視化し、利用者が時間帯や経路を事前に選択しやすくするデジタルサービスの提供 ✓ 免許返納後に移動手段で困らないよう、公共交通・移動販売・オンラインサービス等への円滑な移行を一体的にサポートするパッケージ設計と、返納を後押しする特典・優遇の仕組み ✓ オンラインサービス・テレワーク活用と連携した、通勤・送迎そのものの回数・距離を減らす企業・住民向けの仕組みづくり ✓ 平日朝など特定の時間帯・エリアへの自家用車乗り入れの規制と、駅から適度に離れた送迎専用スポットの整備

●「空き家対策」分野の募集課題（テーマ）について

めざす社会的インパクト：問題空き家（管理されていない・所有者不明など）の増加を未然に防ぐとともに、利活用を促進することで空き家が減少する
自治体が抱えているペイン：問題空き家の増加により、行政の業務負担・コストの増加や、地域の魅力が低下し地域住民が流出する

めざす社会的インパクトを実現し、自治体が抱えるペインを解消するために、民間企業から募集する新規事業テーマ

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント
B-1	空き家化リスクのある住宅への早期介入及び効果的な活用(売却、空き家バンク登録、解体等)を促す事業提案	空き家化リスクのある住宅所有者(高齢世帯等)及びその家族に対して、地域内の福祉・終活関係者・地元不動産などの伴走支援者、所有者やその家族との接点を持つステークホルダー等が早期に関わり、所有者とその家族に空き家のリスク等の正確な情報が提供されることなどを通じて、資産価値が低下してしまう前に、売却や空き家バンク登録、解体等の対応が促進され、管理されない空き家の発生が未然に防がれている。	【課題内容】 高齢化や核家族化など様々な要因が重なって、誰も住まなくなり適切に管理されていない空き家や、相続登記がされていない所有者不明の空き家が全国的に増加しています。 こうした空き家は時間の経過とともに劣化が進んで活用が困難となり、空き家バンクへの登録も困難になります。 また、所有者が不明の場合、利活用はもちろん、解体も進まない状況に陥ります。 空き家の増加は治安や景観の悪化等を招き、地域の魅力の低下によって現役世代の流出を加速させ、さらなる空き家の増加を生む負の循環につながります。 日本の人口減少というマクロトレンドは変えられず、子世代が地方の実家に戻らないことを前提とすると、地域の関係者（地域内の福祉・終活関係者・空き家バンクや地元不動産事業者などの伴走支援者、所有者やその家族との接点を持つステークホルダーなど）が早い段階から関わり、空き家化によるリスクや損失を所有者や家族に理解してもらうことを通じて、選択肢が乏しくなる前に、より早い段階（資産価値が残った状態）で、売却や空き家バンク登録などの行動を促し、管理されていない空き家の発生を未然に防ぐことが求められます。 あわせて、空き家の流通を促進し、総数を減少させるため、地域の魅力や特性を活かしつつ、新たな利用者や居住者を地域に呼び込む取り組みも重要となります。 また、空き家問題は相続や家族間の問題などデリケートな課題も伴います。そのため、地域住民の理解を得ながら取り組むことが必要であり、既存事業等で培った高い信頼性や公平性を有する企業やプレイヤー等の参画も期待されます。 【提案のポイント】 こうした状況から、例えば以下のような視点を踏まえた提案を期待します。 ✓ 既存のアセットやサービス、顧客接点等の活用により、空き家化リスクのある住宅やその所有者・家族に対して、効率的・大規模にアプローチできる仕組みや、空き家化のリスクや損失を所有者や家族に効果的に伝え、行動変容を促す手法など

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント
			✔ 空き家化する前の早い段階で売却や空き家バンク登録に繋げられる仕組み ✔ 地域や空き家の魅力・特性を理解したうえで、入居や利用を促進することができる仕組み（短期的な利用だけでなく、例えば移住などにより中長期での利活用につながる手法なども含む）

●「持続的な公園マネジメント」分野の募集課題（テーマ）について

めざす社会的インパクト：公園の魅力・利用価値が向上し、利用者や地域の担い手に継続的に活用・維持されることで、人が集う魅力的な地域の実現
自治体が抱えているペイン：公園の魅力・利用価値の低下により、利用者や地域の担い手が減少し、公園の維持管理や魅力向上がさらに難しくなることで、地域の魅力低下や人口減少、財政悪化の悪循環に陥っている

めざす社会的インパクトを実現し、自治体が抱えるペインを解消するために、民間企業から募集する新規事業テーマ

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント
C-1	利用者ニーズに応じた公園価値の創出につながる事業提案	利用者ニーズに応じた多様な機能やサービスが公園に提供され、公園ごとの特色や役割を活かした利用が進んでいる。その結果、子どもから高齢者まで幅広い世代が日常的に公園を利用し、地域内外から人が集う魅力ある公共空間となっている。	【課題内容】 ライフスタイルや地域課題の多様化に伴い、公園には子育て、健康、スポーツ、文化、観光など、多様なニーズに応える役割が期待されています。 しかし、公園ごとの利用実態や利用者ニーズを継続的に把握・分析し、それを公園づくりへ反映する仕組みが十分に整っていません。 その結果、地域や利用者にあった機能やサービスの提供につながらず、公園の魅力・利用価値が十分に発揮されず、利用者の減少や公園への投資優先度の低下につながる悪循環が生じています。 これを断ち切るため、利用者ニーズを起点に、公園の魅力や利用価値を継続的に高めていく仕組みづくりが求められています。 【提案のポイント】 こうした背景を踏まえ、例えば以下のような視点を含む提案を期待します。 ✓ AI・データ分析・センシング等を活用し、公園の利用実態や利用者ニーズを把握・分析し、公園づくりへ反映する仕組み ✓ 子育て、健康・ウェルビーイング、スポーツ、文化、観光等、多様な利用目的や利用シーンを創出する事業 ✓ カフェ、マルシェ、体験プログラム等、公園の魅力・利用価値を高めるサービス・コンテンツ・空間活用 ✓ 地域資源や公園ごとの特色を活かし、新たな利用者や交流を生み出すとともに、地域内外から人を呼び込むサービス・ビジネスモデル

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント
C-2	公園への継続的な利用・参加を促す事業提案	地域内外の人が継続的に公園を利用し、主体的に関わることで、公園への愛着が育まれている。その結果、公園の利用者・利用回数が増え、公園の魅力・利用価値が向上するとともに、地域の活力向上につながっている。	【課題内容】 公園は、交流や健康づくり、防災、子育てなど、多様な役割を担う地域の重要な公共空間です。一方で、利用者の固定化や減少により、「自分たちの公園」と感じながら主体的に利用・参加・運営に関わる機会が十分とは言えません。 また、利用や参加のきっかけづくりや継続的に関わる仕組みが十分に整っていないため、一部の担い手へ負担が集中するとともに、新たな利用者や担い手が生まれにくい状況となっています。 その結果、公園への愛着が育たず、地域による維持管理活動や利活用が縮小する悪循環が生じています。これを断ち切るため、市民や企業、地域団体など多様な主体が、継続的に公園の利用・参加・運営へ関わる仕組みづくりが求められています。 【提案のポイント】 こうした背景を踏まえ、例えば以下のような視点を含む提案を期待します。 ✔ 公園での体験プログラムやコミュニティ形成を通じて、公園への愛着や「自分ごと」意識を育む取組 ✔ 子ども・子育て世代・高齢者・若者など、多様な利用者が継続的に集い、交流できるイベント・サービス ✔ ポイント付与・ゲーミフィケーション・デジタル技術等を活用し、市民が継続的に公園を利用・参加したくなるサービスや仕組み ✔ 地域団体・企業・学校・NPO 等、多様な主体が維持管理や利活用へ継続的に関われる仕組み ✔ 単発イベントではなく、継続的な利用・参加につながる事業モデル・プラットフォーム

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント
C-3	公園維持管理の負担軽減につながる事業提案	限られた人員や財源の中でも、効率的かつ持続的な維持管理が行われ、公園の管理水準が維持・向上している。その結果、公園の魅力・利用価値が維持され、市民に安全・快適な公園が継続的に提供されている。	【課題内容】 公園ストックの増加や維持管理を担う人材不足により、公園の維持管理にかかる負担は年々大きくなっています。また、財政制約の中で、維持管理に必要な人員や予算を十分に確保することも難しくなっています。そのため、点検・清掃・除草・樹木管理などの維持管理業務が十分に行えず、公園の安全性や快適性、景観の維持にも影響が生じています。 その結果、公園の管理水準の低下や公園の荒廃につながるだけでなく、公園の魅力・利用価値の低下を招き、さらに維持管理の負担が増大するという悪循環が生じています。 これを断ち切るため、人手やコストを抑えながら、管理水準を維持・向上できる新たな技術やサービスが求められています。 【提案のポイント】 こうした背景を踏まえ、例えば以下のような視点を含む提案を期待します。 ✔ 点検・清掃・除草・樹木管理など、維持管理業務の負担軽減や品質向上につながる仕組み ✔ AI・ロボット・IoT等を活用し、公園維持管理の省力化・効率化を実現するサービス・技術 ✔ デジタル技術やデータを活用し、公園の維持管理を最適化・高度化するサービス ✔ 限られた人員・予算でも管理水準を維持・向上できる新たな維持管理モデル ✔ 行政だけでなく、地域・企業等の多様な主体が効率的に維持管理へ関われる仕組み

●「人材・労働力不足」分野の募集課題（テーマ）について

めざす社会的インパクト：人口減少下における持続可能な地域社会の実現

自治体が抱えているペイン：人口減少・高齢化の進展により、人材不足が深刻化し、公的サービスや地域産業の維持が困難になる

めざす社会的インパクトを実現し、自治体が抱えるペインを解消するために、民間企業から募集する新規事業テーマ

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント
D-1	福祉・介護や公共インフラ(水道・道路・橋梁等)を支える建設・土木など、公的サービス分野における「省人化・生産性向上」につながる事業提案	人口が減少し、人材不足が進む中でも、テクノロジー（AI・ロボティクス等）の導入等により生産性が向上し、公的サービスや地域産業が維持される。	【課題内容】 人口減少に伴い、人材不足が常態化しつつあります。省人化投資の必要性は高まっているものの、導入コストの負担、導入に向けて検討を行う人材やノウハウ・情報不足、熟練技能への適用の難しさなどから、省人化・生産性向上の取組が人材不足の進行に追いついていない状況です。 人材不足に起因する供給量の減少や品質低下は、売上・利益の減少、投資余力の減少につながり、省人化投資が一層困難になる悪循環が生じます。また、特に状況が深刻な福祉・介護や公共インフラを支える土木・建設などの公的サービスの提供が困難になるほか、人手不足による事業の縮小・廃業が進めば、地域産業の衰退や人口流出を招き、人材不足がさらに悪化する負の循環が生じます。 これを断ち切るため、AI・ロボティクス等の活用による省人化を進め、限られた人材でも公的サービスや地域産業を維持していく必要があります。 【提案のポイント】 こうした状況から、例えば以下の視点を踏まえた「公的サービス分野における省人化・省力化・生産性向上」に関する提案を期待します。 ✓ AI・ロボティクス等を活用した省人化や、身体的負荷の軽減など ✓ 導入のしやすさ（投資コストの低減(省人化等の成果に応じた費用負担など)、現場での使いやすさ) ✓ 熟練技能・ノウハウ継承の円滑化・簡易化、スキル・ノウハウが無くても作業へのアシスト機能等で即戦力化できる技術等 ✓ 少人数でも品質を維持できる新たな事業モデル

No	募集事業	自治体がありたい姿	課題内容と提案のポイント
D-2	福祉・介護や公共インフラ(水道・道路・橋梁等)を支える建設・土木など、公的サービス分野における「求人と求職のミスマッチ解消」につながる事業提案	人口が減少し、人材不足が進む中でも、地域の人材が適材適所で活躍できる環境が整備されることで、人材不足が解消・緩和され、公的サービスや地域産業が維持される。	【課題内容】 事務職など求人数に対して求職者が多い職種がある一方、福祉・介護や公共インフラを支える建設・土木など、求人倍率が著しく高い職種も存在し、職種間で大きな偏りが生じています。 こうした背景には、希望する勤務条件や業務負荷の軽重、必要な資格・スキル・経験（未経験の仕事に対する心理的なハードルを含む）などのミスマッチが一因となっています。 人材不足が深刻化する中、他方、今後の AI の普及により定型業務等の代替が進み、人に求められる業務の変化も見込まれる中で、必要な職種に適切に人材が供給されないと、人手不足業種の解消にはつながりません。また、人材不足が解消されなければ、上記 D-1 と同様の負の循環が生じます。 こうした課題を解決するためには、年齢、性別、体力、ライフステージ（子育て・親の介護など）や、経験・スキル等によって生じるミスマッチを解消し、多様な人材が地域で活躍できる環境を整備することが求められます。 【提案のポイント】 こうした状況から、例えば以下の視点を踏まえた「公的サービス分野における求人と求職のミスマッチ解消」につながる提案を期待します。 ✔ 短時間勤務やリモートワークなど、多様な人材の多様な働き方を実現するサービス、それを実現している地域企業（求人）の可視化 ✔ 業務プロセスの可視化・標準化・細分化等による誰でもできる仕組み化 ✔ 退職予定者(早期退職含む)を対象とした、社会的意義・やりがいのレクチャーや現場体験を含むリスキングの充実（例えば 55 歳以上の従業員向けの福利厚生としてリスキングメニューを提供、早期退職時の退職金上乘せ分を原資としたリスキングサービスなど） ✔ 関西エリア(通勤圏内)での人手不足職種・必要なスキル等の可視化、域内・企業間での人材シェアの仕組み ✔ 希望する勤務条件や保有スキル等を踏まえた高精度マッチング

募集課題（テーマ）の選定について

「XKANSAI ソーシャルイノベーション・プログラム（第3期）」では、民間企業が自社のリソースやテクノロジー、知見を活用・応用して、社会課題解決や社会的インパクトを生み出しつつ、イノベティブなサービスの創造や新規事業の開発・展開がなされることをめざしています。中でも、社会課題解決や社会的インパクトの創出のために、課題の現場を多く抱える自治体が民間企業と連携していくことがとても大切だと考えています。

民間企業が有する経営資源にも限りがあることから、闇雲に自治体の課題を提示して民間企業から解決策を募集することは社会課題解決のためには非効率であると考えました。そうしたことから、本プログラムでは、「生活交通の確保」「空き家対策」「持続的な公園マネジメント」「人材・労働力不足」という4つの社会課題（テーマ）を選び、その4つのテーマごとに、「システムとして何が本質的に問題になっているのか」を本年5月以降、関西圏の自治体・官公庁の参画・協力を得ながら構造的な把握・分析等を進めました。

大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良など、広域・基礎自治体や行政機関職員の参画を得てワークショップを行い、次ページ以降にある課題構造マップとして整理するとともに、そのマップ内において自治体が真に困っていることは何か、またその社会課題全体を好転させる「本質的で根本的な問題点・要素」について議論を重ねました。システム思考において、その社会課題全体に好影響を与える「本質的で根本的な問題点・要素」のことを「レバレッジ・ポイント」と呼びます。自治体が抱える課題解決にもつながる「レバレッジ・ポイント」を9点抽出し、本プログラムにおける「募集課題（テーマ）」としました。（前ページまでに掲載）

今回、民間企業から自社のリソースやテクノロジー、知見を用いた新規性が高い事業企画を募集します。

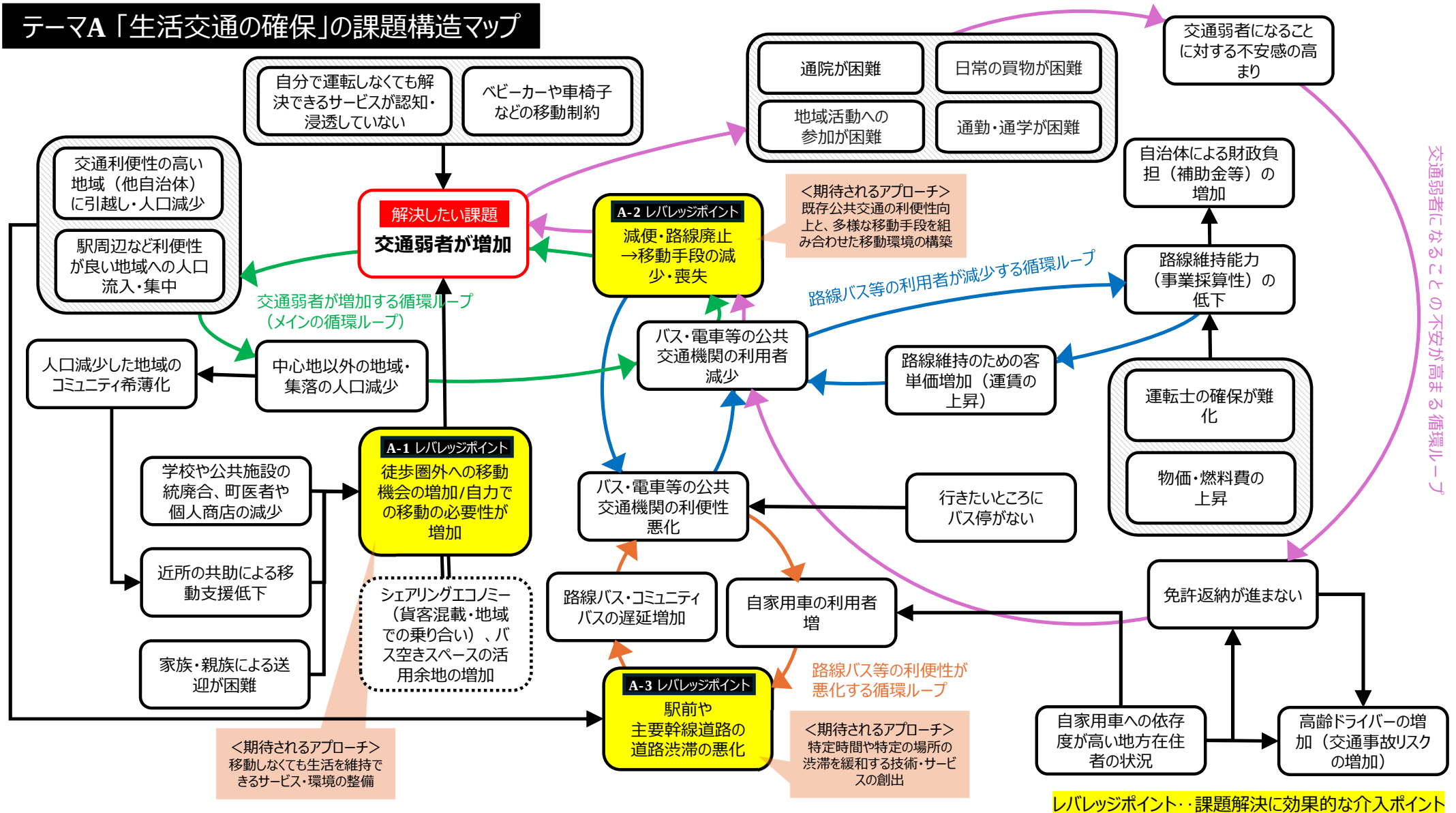
なお、課題構造やレバレッジ・ポイントの設定（募集課題選定）のプロセスで現場の課題を抱えている関西圏の大小の自治体職員の協力を得ていることから、単なるアイデアレベルのものではなく、実証事業を伴うような事業企画であれば、本プログラムにおける各賞受賞の可能性も高くなり、また実際に事業企画の実証につながったり、関係機関からの支援を受けやすくなると考えています。

今年度の第3期プログラムでは、ファイナリスト選定企業へのメンタリング支援や受賞企業への主催者及び協賛企業等からのサポートもご用意しております。社会課題を根本から解決するための、新たな事業のご応募をお待ちしています。

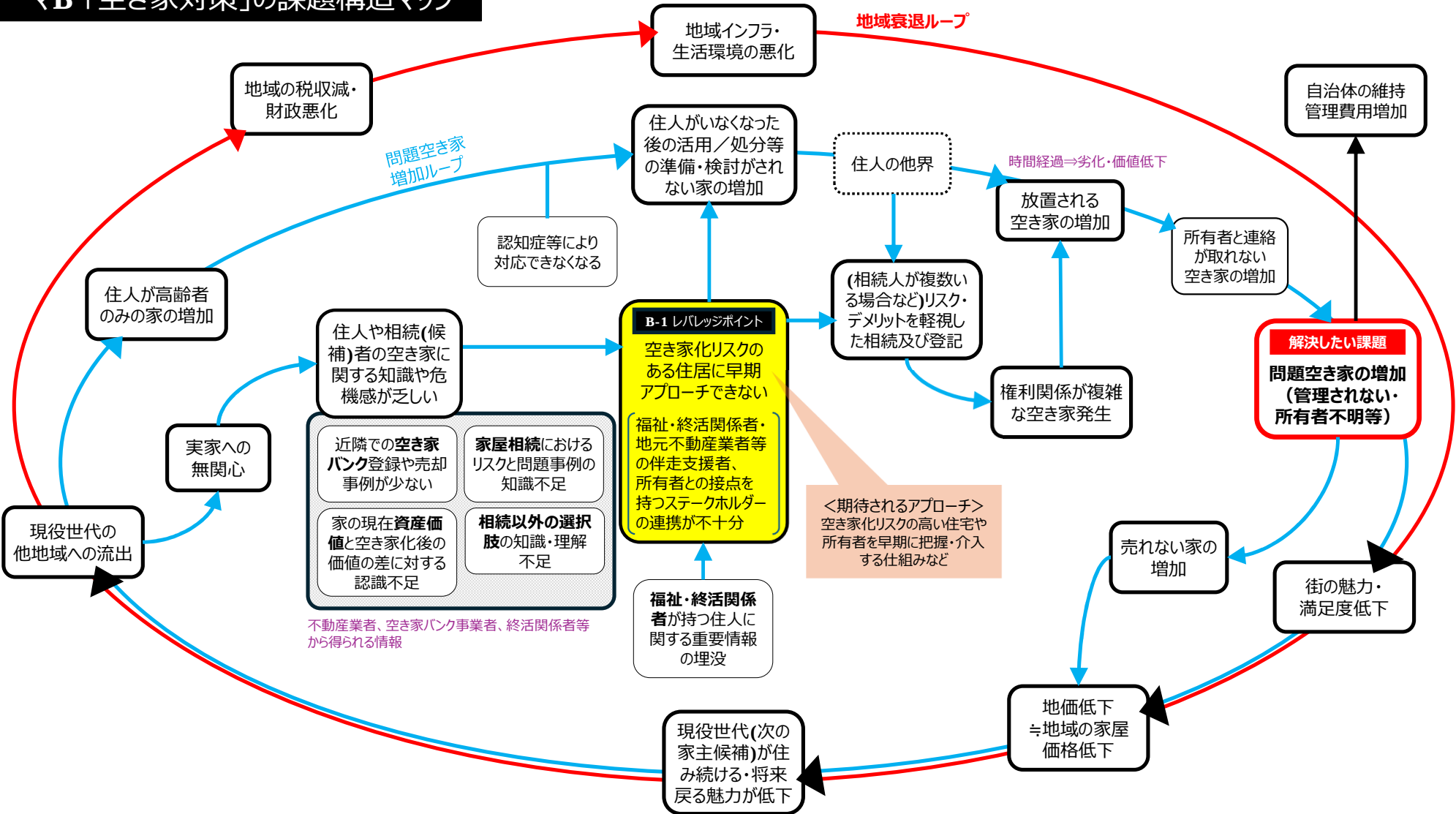


本年5月・6月に行政の皆さんとともに課題構造化と
レバレッジ・ポイントの設定を行いました

テーマA「生活交通の確保」の課題構造マップ

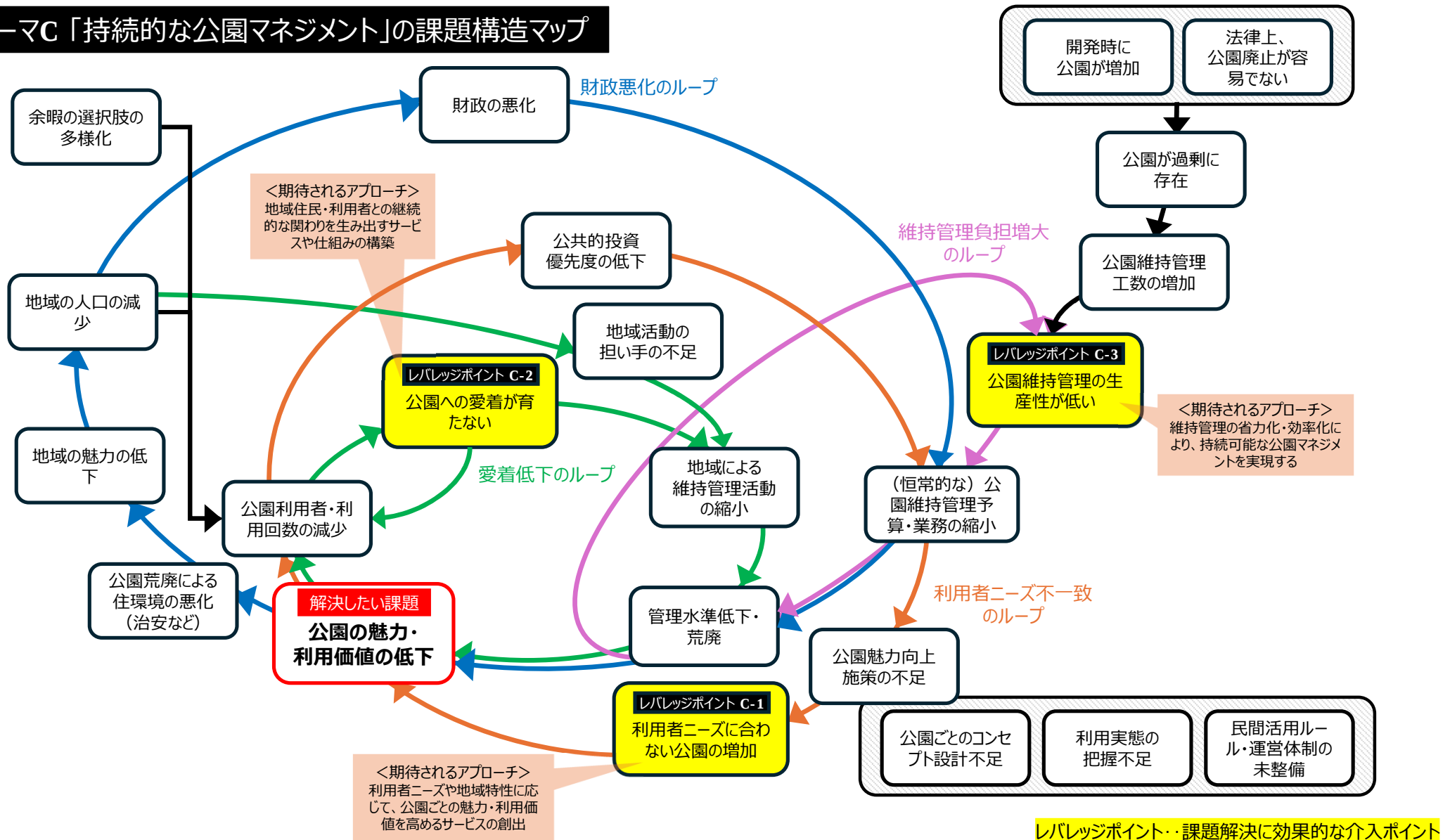


テーマB「空き家対策」の課題構造マップ

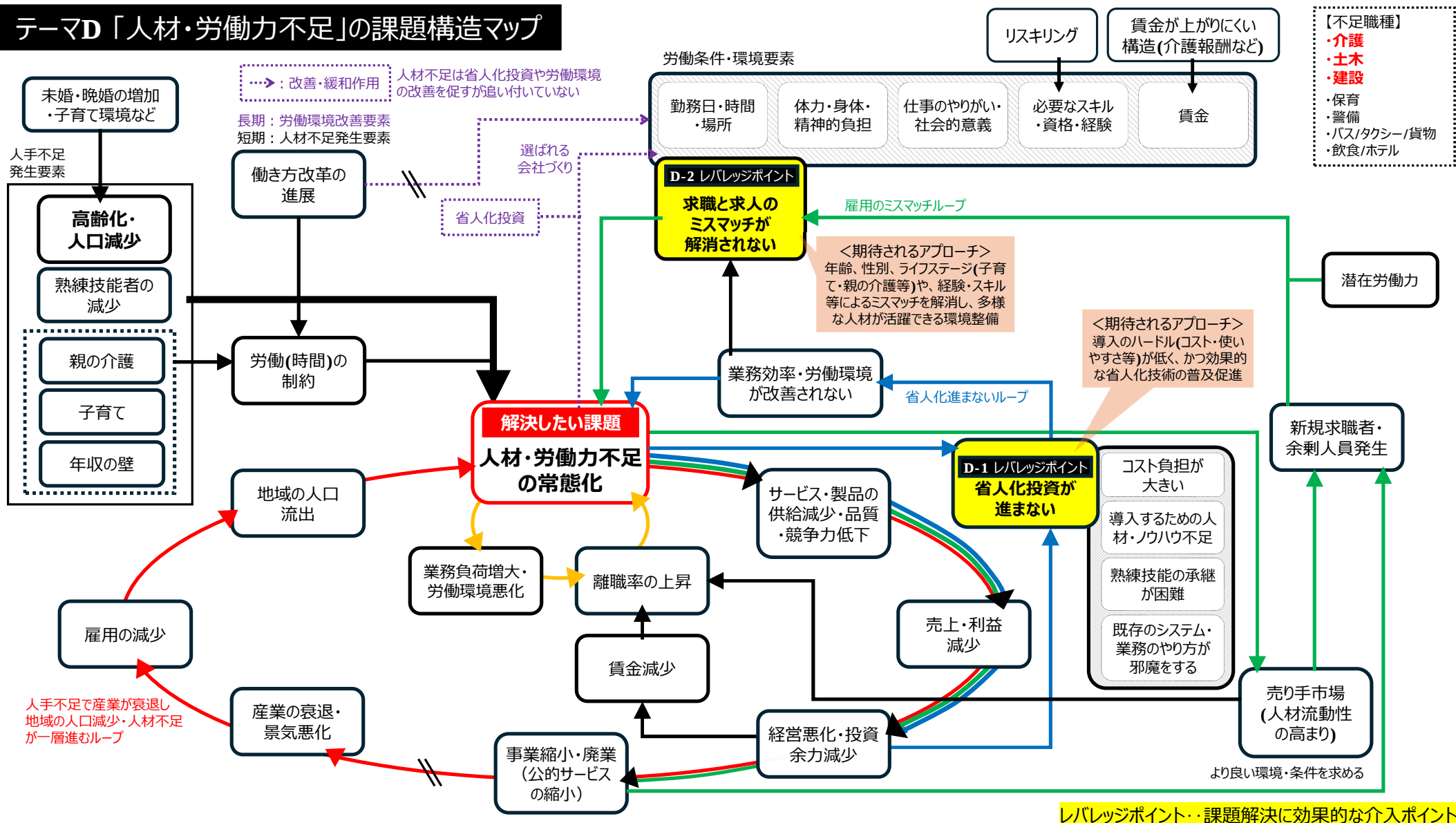


レバレッジポイント・課題解決に効果的な介入ポイント

テーマC「持続的な公園マネジメント」の課題構造マップ



テーマD「人材・労働力不足」の課題構造マップ



【補足説明資料】

アウトプット・アウトカムの記入について

本資料は、提案申請書の「事業概要」欄にある〈XKANSAI 共通アジェンダへの貢献ロジック〉に記入いただく「アウトプット」「アウトカム」について、記入の考え方を補足するものです。

1. なぜアウトプットとアウトカムを分けて考えるのか

XKANSAI は、経済的利益の確保とあわせて、社会的インパクトの創出を重視するプログラムです。「何を行うか（アウトプット）」だけでなく、「その結果、顧客や社会にどのような変化・価値が生まれるか（アウトカム）」を明確に示すことが、事業提案の説得力を高め、審査における重要な評価ポイントとなります。

提案申請書では、アウトプット・アウトカムを通じて、本プログラム（第3期）で取り上げる各課題（テーマ）の共通目標にどのようにつながるかを示す一連のロジック（ロジックモデル）として記入いただきます。以下、両者の違いと記入のポイントを整理します。

2. アウトプットとアウトカムの基本的な考え方

アウトプットとアウトカムは、下表のように整理できます。

	アウトプット	アウトカム
定義	事業を通じて顧客に提供するサービス・プログラムの内容と数量	アウトプットの結果として、顧客や社会が得る価値・変化の内容と数量
主語	提案事業者（自社）	顧客・受益者・社会
視点	何を行うのか	どのような変化・成果が生まれたのか
性質	事業者が自らコントロール可能（実施の裁量がある）	事業者が直接コントロールできない（顧客・社会の行動変容に依存する）
評価軸	実施したかどうか（実施数・件数）	達成した場合に、社会的インパクトとして意義があるかどうか

【記入例：空き家対策】

アウトプット	アウトカム
AIを活用した空き家マッチングプラットフォームでの情報提供 300件	空き家の利活用・転用の成約件数 15件

さらにその先には、各課題（テーマ）のインパクト共通目標（例：問題空き家（管理されていない・所有者不明などの空き家）の減少）へのつながりを示します。なお、顧客が自治体や他の支援団体などの中間的な主体であっても、最終的に地域住民や社会課題の解決に還元される内容であれば、アウトカムとして設定して差し支えありません。

3. アウトカムとして設定を避けたい例

以下の3つのパターンは、アウトカムとして設定しても、事業成果として評価しづらいため、記入時にご注意ください。

(1) 事業者自身がコントロール可能な取組実績（本来はアウトプット）

相談件数、セミナー・イベント参加者数、プラットフォーム登録者数、会員数、応募数、面談実施件数など、事業者が自ら実施し、その気になれば達成できる活動実績は、アウトプットとして設定してください。

(2) アウトプットの結果、自動的・直接的に生じるもの

アウトプットの結果として自動的に発生する派生的な数値は、顧客・社会にとっての価値変化を示せていないため、アウトカムとして不十分です。

- ・ 例：アウトプット「空き家マッチングプラットフォームでの情報提供」に対し、アウトカムを「プラットフォームの閲覧数・登録者数」とするのは不適切です。
- ・ 正しくは、実際に行動・状態の変容が生じた結果である「空き家の利活用・転用の成約件数」のような指標を設定してください。

(3) 単体では成果としての評価が難しいもの

メディア掲載数・SNS 言及数、認知度・認知率の向上など、それ単体では社会的な成果として評価しにくい指標です。ただし、「認知度向上 → 相談申込の増加」のように、次の成果につながる中間的な段階として位置づけられる場合は、中間アウトカムとして設定できることがあります。

4. アウトカム設定にあたっての留意事項

1. 証拠の提出可能性を考慮する

達成の証拠（契約書、登記簿等の公的書類、利用実績データなど）を提出できるかどうかを事前にご確認ください。契約の相手方との守秘性の高い情報（NDA 等）は、事業者が入手・提出できない場合があるため注意が必要です。

2. 定義を曖昧にしない

「地域活性化」「空き家問題の解決」といった抽象的な表現ではなく、「〇〇地域における空き家の利活用件数」のように、どのような状態をもって達成とするかを具体的に記述してください。

3. 増加率・変化率を用いる場合は前後の測定が必要

「意識の変化」「利用率の向上」など変化率で成果を示す場合、施策の実施前と実施後の両時点で観測・データ取得ができる設計にしてください。

ご不明な点がある場合は事務局までお問い合わせください。 <mailto:info@xkansai.com>